

よさの地域デザイン会議（全体会）を開催しました

11月21日（日）知遊館あじさいホールで、加悦、岩滝、野田川の全ての地域の参加者が一堂に会して「よさの地域デザイン会議（全体会）」を開催しました。

今回の会議のテーマは「全町単位あるいは近隣市町との連携で必要なサービス（施設）のあり方」です。

第1部は、各地域での2回の会議を終えての中間発表を行ったのち、公共施設は住民のものであり、住民福祉の増進が目的であることから、単純に施設を削減すればいいというものではないこと、だからこそこの様な多様な方々からの意見を集めることの重要性を改めて確認しました。

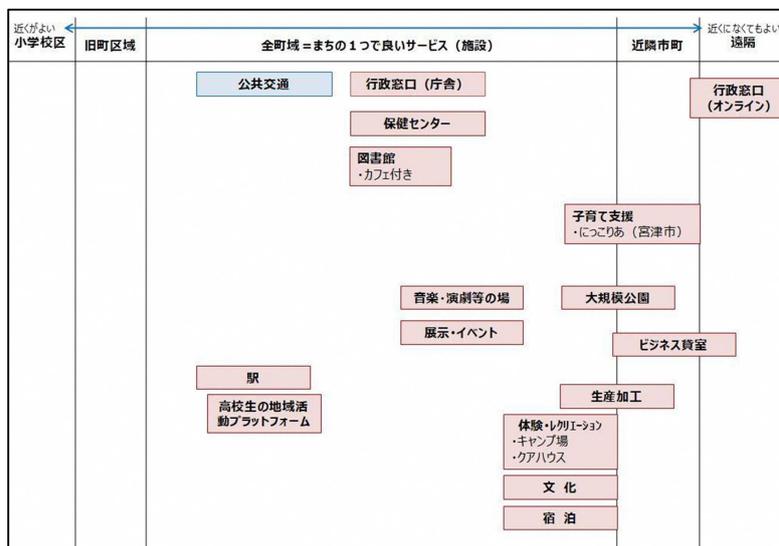
第2部では、各地域でファシリテーターを担っていただいている3人の先生からそれぞれ「集約・複合化」に関する先進事例を紹介していただきました。

滋野先生からは「山形県長井市の鉄道駅一体庁舎」の事例を、青山先生からは「岩手県紫波町のオガールプロジェクト」の事例を、谷口先生からは「兵庫県西脇市のMiraie（みらいえ）」と新潟県三条市のステージえんがわ」の事例を紹介いただきました。

第3部では、いよいよ「全町単位あるいは近隣市町との連携で必要なサービス（施設）のあり方」について、これまでの各地域での意見を元に事務局が作成したたたき台を元に、7つのグループでじっくりと意見を出し合いました。



- 参加者 住民 30人、町職員 20人（事務局含む）、傍聴者 3人
- ファシリテーター 福知山公立大学地域経営学部 准教授 杉岡 秀紀 氏
- 加悦地域担当 京都産業大学現代社会学部 教授 滋野 浩毅 氏
- 岩滝地域担当 福知山公立大学地域経営学部 教授 谷口 知弘 氏
- 野田川地域担当 一般社団法人地域問題研究所 理事長 青山 公三 氏



これまでの意見を元に作成された「たたき台」

参加者のみなさまからの意見の一部を紹介します

グループ1

- ◇町内にある公園（阿蘇シーサイドパーク、大江山運動公園、フォレストパーク）は中規模に当たる。大規模の公園を使いたければ他市町に行ってもらい、中規模の現存する公園は維持管理していく。そこが人の集まる場となればなおよい。
- ◇与謝野駅に人の集まる場の創出ができればいい。例えば加悦高校生のプラットフォームの場があれば通学や帰りに寄ることができるのでは？そういう整備をしたうえで、子育て施設なんかやカフェが併設されていればもっとおもしろくなる。
- ◇宿泊施設は採算がとれているのだろうか。とれているならそのままでもよい。
- ◇ちりめん街道などもあるので、文化等の施設で与謝野ツアーなどをもっと企画し、外から人を呼び込み外貨を獲得すべき。
- ◇庁舎については1つでよい。しかし、高齢者のために旧町域で窓口は必要。

グループ2

- ◇行政窓口の施設は一つで十分。しかし集約する際にオンラインによるサービス利便の向上等の現在のサービスより劣ることがないように配慮は必要。
- ◇図書館、音楽・演劇の場、展示・イベント、ビジネス貸室は、サービスの場としては集約が可能であり、紹介のあった先事例のようにできればよいが、新たな施設を建設するのは財政的に困難か。
- ◇子育て支援については町に一つでもよいと思えるが、実際の利用者にあたる若い世代の意見が反映されるべき。
- ◇駅の主な利用者が高校生と想定されるため、施設としては町に一つは必要。対象者から考えた場合に、具体的なイメージがわからないものの、高校生が集まる場を駅舎併設することで集約は可能。

グループ3

- ◇庁舎は3つから1つにしてもいいが、オンライン化・公共交通の整備が必要（オンライン化については高齢者等へのフォローが必要）
- ◇役場職員が定期的に各地区公民館に出向いて各種相談、申請等を受け付ける。
- ◇公民館のビジネス貸館利用
- ◇加悦校生の集いの場はローソンしかない。峰山にある「roots」のような高校生の集まれる場所があればいい。
- ◇今ある施設を利用し、集える仕組みづくりをする。ミップルのような複合施設があればいい。
- ◇駅、駅周辺に機能を集約し、人が集える場所にする。
- ◇展示・イベント、音楽・演劇等の場などとの複合化。
- ◇現在ある施設を利用した複合化を検討する方がよい。
- ◇公共施設が統廃合により無くなった後のフォローとして公共交通の充実が必要。
- ◇時間の空いている人と送迎してほしい人とのマッチングサービス、町有マイクロバスの公共交通への活用はどうか。

グループ4

◇行政窓口：「役場は1箇所」で。旧町単位（現3庁舎地域単位）地域公民館で役場職員が待機し、窓口機能が果たせるよう配慮を。

◇点（施設・サービス）を線でつなく「公共交通機関」 ⇒ スクールバス（現加悦地域）の空き時間に、施設を回り人を運ぶ。住民にも、スクールバス運転手にも良い方法。

◇「音演劇」「展示・イベント」など、町内で規模の小さな施設を運営するより、京都北部の規模で大きな施設があれば開催するイベント等も、良いものができる。良いものが鑑賞できるのでは。中途半端な施設とにならないよう。

◇「駅」をどう捉えるか。現在の与謝野駅（鉄道）は、高校生の通学、高齢者の移動。バスを充実させ、駅の運営は無人でといった方法。またその逆も。「駅」を多目的に活用しないと無駄な施設とにならないか。

◇子ども、若者中心に楽しめる、使いやすい施設（要望のスケボー施設よいのでは）。

◇廃校利用：多くの市町が有効活用している。宿泊、体験学習、個人商店、居酒屋等民間をどう取り込むか。熱い人物も多い。情報提供と業務提携を。

グループ5

◇そもそもこの考え方（フォーマットから公共サービスの利用圏域を考える）でよいのか。

◇施設を減らす前提となっているように感じるが、増やすことを考えるべき。

◇施設の解体についても費用がかかるため、まずは価格等数値により精査し、改修が可能かを考えるべき。

◇存続できる収益、町民の幸福につながるかの2軸で考えるべき。

◇双峰公園は予約をオンライン化して繁盛しているなど、やり方を変えることで存続につながる。

◇駅は動かしようがない。

◇大事なものは自立することである。

◇あらかじめ準備されたたたき台の配置については特に移動しなくてもよい。



グループ6

◇施設の統合と同時に、廃止できる施設を検討するべきであり、ソフト面での対応を強化したり行政だけではなく民間の力を使う等、工夫すれば住民サービスの低下も抑えられる。

◇まずは庁舎の一本化を行うべき。出張サービス等を旧町単位で行えば住民サービスの低下にはならないと思う。また、高齢者でもパソコンやスマートフォンを使用する時代になってきたので、各手続きの電子化を進めれば対応できる範囲も広がると思う。

◇図書館の無いような町は活性化しない。返却窓口を各所に設置するような工夫をすれば、図書館を統合できると思う。

◇どの施設にも共通して言えることだが、アクセスが一番大事。

◇保健センター等、普段は鍵が掛かっているような施設を開放し他の施設機能を持たせることで、移行できる住民サービスや廃止できる施設が見えてくると思う。

◇この会議をとおして与謝野町の現状を初めて知った。与謝野町民がこの会議のことはもちろん、与謝野町のことをもっと知るべき。改めて周知をしてほしい。

グループ7

◇文化は伝える場と捉えるなら町内のいろいろな文化について知ることのできる場所が1つに集約されている方がいい。情報発信と捉えるなら施設がなくてもインターネットで発信することもできる。

◇子育て支援は町外でも利用できるのは良いことだが、その施設が利用できなくなった場合の決定権がないので、町内できちんと利用できるようにするべき。

◇観光、体験、宿泊などは集約ではなくもっと充実して町内外の人にもっと利用してほしい。現状では少ないと感じる。その場所に来て体験しないと分からないこともある。

◇施設の集約は交通とセットで考えないと、交通弱者の方の利用が減ってしまう。

◇人口が減っていくネガティブな発想で考えるより、人口が増えるようにサービスをどうするかというポジティブな発想で考えられないだろうか。

◇移動図書館より今ある図書館でオンラインで予約できて、本が家に届いたり、コンビニ受取のように小学校や保育所などの近くの施設で本が受け取れる仕組みがあれば、集約しても利用しやすい。



